戸倉中生 介護の仕事学ぶ

養護老人ホームで「フクシ未来講座」

ネックスピーカーを体験する生徒

函館厚生院養護老人ホーム永楽荘（高丘町）は1月28日、若い世代に地域の介護施設へ関心を持ってもらおうと「フクシ未来講座」を開いた。函館戸倉中学校（会田大祐校長）の1年生69人が招かれ、介護の仕事や福祉の現場への理解を深めた。

講義に先立ち、前田敦荘長が「コロナ禍後、このような機会は初めて。福祉の現場もデジタル化が進み、働き方も変わってきていることも知ってほしい」とあいさつ。生徒は各部屋に設置され、利用者がマットを踏むことで離床や移動を検知するセンサーマットや、インカム（無線機）の仕組みや機能について説明を受け、首にかけるネックスピーカーで情報のやり取りを体験した。

講義を聞いた深尾羽珂さん（13）は「将来スポーツトレーナーになりたい夢があるので、同じように人と接する仕事の現場を学ぶことができて参考になった」と話した。講義を担当した鈴木宏輔介護副主任は「生徒が真剣に聞いてくれたのがうれしかった。介護の仕事の大切さややりがいを知ってもらい、住み慣れた地元で一緒に働いてくれたら」と話した。（北畠妙子）